

千葉大学医学部附属病院で大動脈弁狭窄症と診断された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年5月8日
循環器内科/心臓血管外科

循環器内科/心臓血管外科では、多施設における大動脈弁狭窄症患者に関する検討に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2016年1月1日～2025年4月30日の間に大動脈弁狭窄症と診断された方

1. 研究課題名

「多施設における大動脈弁狭窄症患者に関する検討」

2. 研究期間

2025年承認日～2030年7月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院 観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

大動脈弁狭窄症は、心臓から血液を送り出す出口の弁が硬くなり十分に開かなくなる病気で、初期は自覚しにくいものの、悪化すると息切れや足のむくみといった心不全の症状、さらには失神や突然死を招く恐れがあります。治療には胸を開いて弁を取り替える外科手術（SAVR）と、足の血管から細い管を通して新しい弁を入れる体への負担が少ないカテーテル治療（TAVI）があり、TAVIは体への負担が小さいため、とくに高齢の方を中心に近年急速に広がっています。それでも、大動脈弁狭窄症がどのように進行するのか、誰が治療後に再入院しやすいのか、手術中のトラブルが退院後の体調にどう影響するのかといった点は十分に分かっていません。そこで私たちは、複数の病院で大動脈弁狭窄症と診断され

た患者さんの診療記録をさかのぼって調べ、治療前後の検査結果や手術方法、手術中の合併症、退院後の再入院や心不全悪化、死亡などを統計的に分析し、治療前から注意すべき危険信号や治療法ごとの特徴、そして術後フォローアップの最適な時期と内容を明らかにし、患者さん一人ひとりにより適した治療と丁寧なケアにつなげることを目指しています。

4. 研究に用いる情報の種類

- ・ 患者様の**基本情報**：年齢や性別、タバコの習慣、持病、飲んでいる薬など
- ・ **検査の結果**：血液検査や心電図、CT・エコーなど
- ・ **大きな出来事**：亡くなったか／脳の血管トラブル（脳卒中）が生じたか／心臓の働きが弱って入院したかなどの確認

上記に関して、大動脈弁狭窄症の診断がついた以降に関して確認します。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学医学部附属病院	北原 秀喜
共同研究機関名	研究責任者
千葉県循環器病センター	中村 精岳

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 冠動脈疾患治療部および各研究機関において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。

情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

冠動脈疾患治療部 診療准教授：北原 秀喜

043（222）7171 内線：72144